

ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利用者氏名：I・M様（女性・80代・要支援2）

病名：うつ状態・脳血管性認知症・高血圧症・脂質異常症

経過：老々介護にて夫と2人暮らし。娘さんが一人いるが海外居住中。高齢夫婦での入居が年々困難であるということから、夫が先に入居をした。妻は自宅で居住することを強く望み一人暮らしをしていた。入居中の夫を看取る中、ライフケアガーデン湘南に足しげく通ううちにホームの入居を考えるようになり、夫が逝去したのちに拒否のあったホームでの暮らしを受容するようになりご入居につながった事例。

内 容

夫が当ホームに入居され、妻は変わらず自宅へ住んでいたが、週一回ぐらいのペースでホームに車で夫の様子をうかがいに来館されていました。妻は軽度の認知症状を患っていたが、ご本人は自覚が無く普通の生活を送られ、車も運転している状態であった。

娘さんは、仕事上A国が生活の拠点で母が何時事故等に巻き込まれるのか心配をしていた。特に一人で車の運転が昨今の高齢者の交通事故のニュースからいつ事故を起こしてもおかしくない状態だと感じ、できれば娘は遠方に居住しているため、すぐにかけてあげることもできず、父と一緒に入居してもらいたいと思っていたが、母に対して強く言うことができず、また、娘さんのご意見は聞き入れないご様子であった。

そんな中、ご入居中の夫の容態が悪化し、医師より余命1か月と診断される。すい臓がんであった。妻も看取りの為、一緒に宿泊される日々を送られることを決断されお過ごしになられるようになり、ホームにて夫のご容態を見守りながら、時間が増え、散歩やレクリエーションにも参加され、食事も他の入居者さんと一緒に過ごすこともありました。又、夫のご様子を伺いに看護師・栄養・介護士等が頻回に訪室し、お看取りについてケアをさせていただいたが、その様子を見ていた妻は、えらく感動されたご様子であった。

1ヶ月後夫は他界し、妻は1ヶ月間のホームでの生活で入居に対する心境の変化が見られ、他の入居者さんとの交流や職員との関わりで毎日が楽しい日々になり、ホームで過ごすことに抵抗がなくなっていった。

夫の葬儀を終え一段落したところで、娘さんは母にご入居を勧めると、母は「私、ここが気に入ったからここに居る」とあっさりとお返答される。この返事に心配していた娘さんは安堵され、母親が本入居をす

る際にホーム側に3つの点でお礼の言葉をいただきました。

1つ目が父の看取りの件で献身的に介護してくれたこと。

2つ目が母のご心境の変化により入居が決まり、安心して海外で過ごせるとの事。

3つ目が親子間の確執が無くなり話しやすくなったとのことでした。

最近では、娘さんが海外にいるときは、メールや国際電話で会話を楽しまれており、帰国時はホームで夕食などを一緒に召しあがられて過ごされている。

看取りを通じて、心境に変化が起こり、家族関係が良好になりご入居に繋がった事例です。